

# 25年度 氷見市教育総合センターだより 第4報

メールアドレス [kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp](mailto:kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp)

ホームページアドレス <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm>

## 第 1 回 教育セミナー

7 月 3 0 日 (火)

演題 「対話力の育成方法と  
深い対話を活用した対話型授業の進め方」

講師 目白大学 教授 多田 孝志 先生

多田先生を迎えて「第1回教育セミナー」を開催しました。わたしたちの日頃の授業において、児童生徒に話し合いをさせようとしてもなかなか絡み合って深まっていかないことが多いものです。そこで、対話力を身に付けるためにはどのようにすればよいかを伺いました。多田先生は、対話力を高めるためには対話の基盤となる力（基礎力）を付けなければならないと語られ、対話力を育むためにどのようにすればよいか、対話スキルの体験を通して学ぶことができました。



[対話スキルを体験]

対話力を付けるためには、

- ① 応答力を付ける。その基盤として「聴く力」を付ける。
  - ② スピーチ力を高める。（伝えたい意志を高め、伝えたい内容の明確化）
  - ③ 対話力を育む。（対話スキルの習得 対話型環境 対話型授業の工夫）
- <対話型授業>・授業全体が対話を中心とした型（パネルディスカッション等）
- ・プラスワン型（一斉授業の中に短い時間の対話を入れる）
  - ・スパイス型（教師主導の授業に意図的指名により反論を引き出す）

## 学力向上研修会

8 月 5 日 (月)

演題 「授業改善、学力向上に対する取り組み」

講師 富山大学 教授 松本 謙一 先生

講師の松本先生から、授業における教師の心構えについて話していただきました。先生は、「授業の際、教師は、教えようという気持ちが強く、子どもの考えを受け止めようという気持ちを忘れていて、子どもが

教師に何を分かってほしいのかを共感的に受け止める（共感的理解）ことが大切である。」「子ども

の考えを共感的に受け止めどう返すかが大切なことであり、学力向上に役立つ。」と、実際に子どもや教師の立場になったの役割演技を行いながら、共感的理解に基づいた子どもへの対応の仕方を教えていただき、共感的理解の大切さを学びました。



### <参加者の感想から>

- ・2学期に生かすべきこと、学級経営に関わるポイントや心がけること、教師の指導力について改めて考えさせられました。(小)
- ・つぶやきは、関わり合う鍵だと学びました。発表の仕方を工夫させることで質問でも関わり合わせることができることが分かりました。発表・発問を工夫していこうと思いました。(中)

## 不登校児童生徒の理解を深める研修会

8月2日（金）

演題 「学校でしかできない不登校児童生徒への支援」

講師 富山大学 教授 喜田 裕子 先生

喜田先生には、不登校児童生徒への支援の在り方について、具体的事例を基に講演をいただきました。参加者から事前に寄せられた質問の回答や「不登校の未然防止のためのチェックリスト」等、豊富な資料を提示していただき、また、具体的にどんな声かけを、どんなタイミングで行えばよいのかを教えていただきました。



### 早期発見・早期対応の観点と具体

#### 月3日以上の欠席の把握と意識化が不可欠

→学校全体のシステム化が効果的

#### 観点①耐性の課題

学校を安易に休まない姿勢を、温かく、かつ毅然と示す。

#### 観点②社会性の課題

頻繁に声をかけ、認める。子ども同士の交流をサポートする。教師がモデルになる。

### 長期的対応の原則と具体

#### ①「切らない」

切れている関係をつなぐ  
「体調はどう？」と本人が容易に答えられる質問から始め、「学校に来られなくて辛い思いをしていたんだよね」と本人の側に立った言葉を伝える。

#### ②「維持する」

関係を維持する、広げる  
母親が来校した折には、「がんばっておられますね。お母さんも辛かったですよね」とねぎらう気持ちを伝える。「おせっかい」できる学校の雰囲気作りも大切。

#### ③「育む」

関係を基盤に育む  
「クラスに戻りたい気持ちもあるけど、戻るのが怖い部分もあるよね」と、心配なことを確認し、本人と作戦会議をして、細やかにステップを踏んでいくことが大切。

## 仲間に学ぶ研修会

8月6日（火）

講師 窪 小学校 七田 尚美 先生  
南部中学校 森谷 信久 先生



平成24年度内地留学者を講師に迎え、市内小中学校の38名の若手教員が参加して行われました。



七田教諭からは、「好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方」と題して、現代の子どもたちの人間関係を良好にするための手法として、開発的カウンセリング（ソーシャルスキル等）の必要性について教えていただきました。また、森谷教諭からは、「思考力・判断力・表現力を育む中学校社会科の授業について～言語活動の「質」を高める指導～」と題し、学習者の授業への主体的参加と協同的思考を促し、社会参加するために必要となる資質・能力の育成を目指した学習方法（参加型学習）について教えていただきました。

### <参加者の感想から>

- ・自分が普段意識していない子どもたちの実態や指導方法について改めて考えさせられました。相手の気持ちを考え、そして、適切な言葉かけができるように支援することが大切だと思いました。（中）
- ・「地球家族」「貿易ゲーム」の演習では、グループ内で協力し合う力が発揮できるかどうか試され、楽しかったです。知識の教え込みでなく、それぞれの国の文化や国際社会の経済の仕組みについて、実感をともなって学習できるスタイルがとても魅力的だと感じました。（小）

－平成 23・24 年度学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業拠点校の実践より－  
**学力向上フロンティア校（H23, H24）としての学力向上の取組**

氷見市立北部中学校

1 成果

(1) 「とやま型学力向上プログラム」の推進のための取組

ア 基礎的・基本的な学習内容の定着を目指した「基礎・基本部会」の取組

イ 生徒同士が共に学ぶ姿勢を育む「学習集団づくり部会」の取組

上記の研修を深めた結果、生徒の基礎的・基本的な知識及び技能が少しずつ高まる

とともに、仲間と共に学び、互いに高め合おうとする意識も育ってきた。

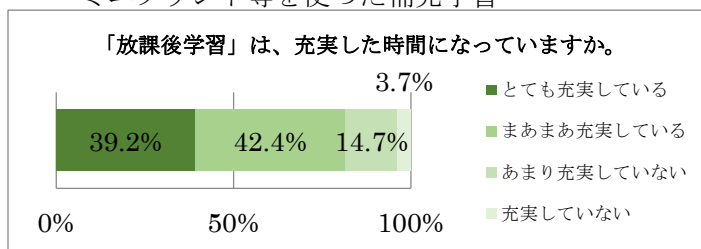
(2) 基礎学力の向上をねらった取組

ア 「北中いきいきタイム」

曜日	活動内容(H24年度)
月	教科の確認問題
火	3色ボールペンによる 読書法・100マス作文
水	100マス計算
木	朝読書
金	教科の確認問題

イ 「放課後学習」の取組

・ミニプリント等を使った補充学習



上記の取組の結果、生徒の思考力や集中力、学習への意欲等が高まり、5教科の

基礎的・基本的な学習内容の確認につながった。

(3) 家庭学習の定着のための手立て

ア 「学習の手引き」の作成と活用

- ・「学習の手引き」の作成と、それを使った各教科担当者からの学習の進め方等についての説明
- ・定期考査への取組を振り返るページの作成と活用

イ 「生活ノート」の改良と活用

- ・家庭学習欄の改良と担任による励まし

ウ ホワイトボードとノートによる家庭学習の習慣付け

- ・宿題を書くホワイトボードの設置と毎日の自主学習ノートの提出の習慣付け

エ 生徒会の「学力向上委員会」による活動

- ・生徒による学習の仕方の提示、学習時間調査、全校共通漢字コンテスト

＜ホワイトボード＞



＜生徒アンケートの結果＞

項目：「自分なりに予定を立てて家庭学習を進めていますか。」（H23年12月）

「見通しをもって継続的に家庭学習に取り組んでいますか。」（H24年12月）

	よくあてはまる		ややあてはまる		あまりあてはまらない		まったくあてはまらない	
	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度
1年	24%	28% ↑	42%	45% ↑	23%	21% ↓	11%	6% ↓
2年	9%	35% ↑	37%	42% ↑	37%	17% ↓	17%	6% ↓
3年	15%	32% ↑	40%	40%	35%	23% ↓	10%	5% ↓

上記のア～エの試みを行った結果、家庭学習への取組の状況が改善された。

2 平成 25 年度の取組

校内研修会や研修支援訪問で学んだこと等を生かし、授業改善の在り方を研究する。平成 25 年度は、特に「生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に学習に取り組む学習課題はどうか」について、互見授業を中心に研修を行う。また、平成 23 年度・24 年度に行ってきた上記の取組を継続する。

## 小 中 連 携 教 育

### <朝日丘小・南部中児童生徒合同研修会>

- ・日 時 7月19日(金) 13:55~14:40
- ・参加者 朝日丘小学校5・6年生、南部中学校1年生

朝日丘小学校では、児童へのアンケートの結果から、インターネットや携帯電話を使ってゲームをしたり、LINEを利用したりすることのある児童が非常に多いということが分かり、小中合同での「ネットトラブル防止教室」が実施されました。

DVD視聴後、高岡警察署生活安全課係長・少年警察補導員の田中比呂美氏より、「ネットについての現状と問題点ネットトラブルに遭わないために」と題して講話がありました。スマートフォンでの犯罪の増加、特にオンラインゲームや無料アプリの危険性についての話に、児童生徒は真剣に耳を傾けていました。



#### <児童生徒の感想>

- ・今回のネットトラブル防止教室はとてもためになりました。私はオンラインゲームをパソコンでしたことがあります。余りしないように気を付けようと思いました。ゲームは無料であっても絶対にしないと決めました。(5年)
- ・私は両親の携帯電話で無料ゲームをしています。楽しいけれど裏には怖い問題がたくさんあることが分かりました。個人情報や顔写真なども載せないように気を付けて使いたいです。(6年)
- ・アプリなどダウンロードするときは親と相談して入れたいと思いました。写真、メルアド、IDなども送らないように注意したいと思います。だまされたりせず、しっかり考えて使っていきたいです。(中1)

### <西條中学校区小中教員合同研修会>

- ・日 時 7月25日(木) 9:30~10:30
- ・参加者 西條中・窪小・宮田小学校 教員約40名

夏休み初日、西條中学校で、「いじめについての理解を深める小中合同研修会」が実施されました。西條中学校の臨床心理士山野俊一氏より「いじめ対策カウンセラーについて」と題して講話があり、いじめや不登校への対応として、学校が家庭やカウンセラー、SSW、専門機関等と連携協力し、風通しのよい組織環境を整えることが大切であることなどのご教示をいただきました。



#### <参加者の感想>

- ・家庭や学校が機能不全に陥らないように連携を図ることは、本当に大切だと思います。日々の授業や事務処理、多人数の児童への対応に追われて時間が過ぎていきますが、その中で、本当に弱っている・困っている児童を見逃さず話を聞き、受容していくことを心掛けていきたいと思いました。(小)
- ・カウンセリングをしてもなかなかうまくいかないが、うまくいかないことが普通であり、よい成果とまではいかなくても、少しよいところが見えたことが、とても効果があるということが分かりました。(小)
- ・優等生は決して問題がないわけではなく、逆に問題を抱えていることも多々あると聞き、教師にとって問題のない生徒もしっかり見て声をかけていかなければと思いました。(中)